

平成 16 年度 中城湾港泡瀬地区環境保全・創造検討委員会
第 1 回人工海浜専門部会

平成 15 年度第 2 回 人工海浜専門部会における指摘事項とその対応について

議事・指摘事項	対応等
<p>「原風景」 原風景のヒアリング結果については、「景観」「動植物」「環境」などの区分に価値判断を加えた上で再整理すること。（新城委員）</p>	<p>原風景については、「比屋根湿地・泡瀬地区海岸整備専門部会」でも検討・整理が行われており、県総合運動公園に見られるような植生の分布が原風景に近いと言われている。人工海浜の景観・環境面から見た検討においても、同様に、資料-3 の -24 に示すような原風景が再現されるような海浜断面が望ましいと考えられる。</p>
<p>「ビーチ背後の汽水域」 汽水域の配置などについては、その実現には水理学上の課題もあることが指摘された（新城委員）が、基本的には実現を目指す方向が専門部会の方針として採択された。</p>	<p>汽水域(野鳥園)については、人工干潟と組み合わせ、生態系の機能の基となる 1 つのコンポーネントとなっているとの指摘もあることから、別途行われる予定の人工干潟検討における水理学上のノウハウ等を受けながら、技術的なことも含めて、別途の場で検討することとする。</p>
<p>「砂浜（オカヤドカリの視点から）」 オカヤドカリの生息する砂浜については、えさや砂の質などを始めとする「場」を創造することが重要である（仲宗根委員）</p>	<p>前述した「比屋根湿地・泡瀬地区沿岸域専門部会」での原風景に関する検討結果も取り込みつつ、オカヤドカリ生息場のモデルを創出することとし、今回資料の「環境計画」（資料-3、-21～24 参照）において整理した。</p>
<p>「他部会との連携」 環境利用学習部会での検討結果との連携を図りながら調査を進めること。（入江座長）</p>	<p>昨年度と同様、環境利用学習専門部会やまちづくり懇談会との連携に加え、本年度からは、比屋根湿地・泡瀬地区海岸整備専門部会との連携を行いつつ検討を進めることとする。</p>
<p>「水域利用」 水上バイクとスキューバダイビングなど、利用が相反するものもあるが、規制する方向よりも出来るだけ様々な利用形態が両立できる方向で検討すること。また、保養機能や身障者利用などにも配慮すること。（入江座長）</p>	<p>平成 16 年度に詳細検討される海浜の安定性検討結果（汀線位置・形状及び突堤等海岸構造物の配置等の確定）を受けて、陸域利用計画及び水域利用計画の見直しを行う。 保養機能・身障者対応については、今回資料の「動線計画」（資料-3、-2～6 参照）において整理した。</p>
<p>「マングローブ林」 マングローブ林の整備のあり方について、比屋根湿地での状況を踏まえた上で、検討すること。（新城委員）</p>	<p>マングローブ林については、人工島全体の雨水や各施設からの中水等の活用により、淡水のマングローブ林創出を考えていたが、人工島における詳細な土地利用が未確定であるため、雨水・中水の確保が断定できないこと、また、マングローブ林の陸地化に対する維持管理の煩雑となること、等を考慮するとともに、別途進められている「比屋根湿地・泡瀬地区海岸整備専門部会」における検討が進捗した後、その結果を受けて、導入の可能性等について検討することとし、現段階においては、アダンの茂み等を拡大することにより、原風景が再現されるような海浜断面（資料-3、-24 参照）とした。</p>

議事・指摘事項	対応等
<p>「海浜安定性」(再現対象の追加)</p> <p>汀線変化の予測について 綿密な検討がなされていることが評価されたが、条件が複雑なので、更なる検討を行うべき。(栗山委員)</p>	<p>勝連ホワイトビーチに加えて、久場海岸を再現対象に加えて、中城湾内の全く違う場所での再現性を確認し、今回の資料(資料-2, 13~14 参照)に加えた。</p>
<p>「海浜安定性」(自然海浜の調査)</p> <p>ビーチの計画にあたっては、県内の自然海岸の実態を十分調査し海浜の安定性の向上を図ること。(入江座長)</p>	<p>中城湾内の自然海浜として、久場海岸の状況(資料-2, 13~14 参照)を整理した。</p>
<p>「海浜安定性」(埋立法線との差異)</p> <p>ビーチの計画は安定性が大切であり、現埋立計画の法線とのギャップについて十分検討すべきである。(入江座長)</p>	<p>想定される安定海岸線の形状(方向)を参考にして、実施可能な法線案に対する影響評価(資料-2, 16~20 参照)を実施した。</p>
<p>「海浜安定性」(養浜砂の流出)</p> <p>人工海浜の沖合に貴重な生物の生息地があるので、砂が出ていかないように、検討する必要がある。(仲宗根委員)</p>	<p>今回の資料(資料-2, 4~5 参照)に記述しているように、荒天時の養浜砂の挙動に関して検討を加えていく。</p>
<p>「その他」</p> <p>磯場の設計をどうするか、汽水域の設計をどのように進めていくかが課題である。(新城委員)</p>	<p>人工海浜の突堤等に計画されている磯場の設計については、今後、検討が行われることとなる。また、汽水域については、前述のとおり、野鳥園における整備となるため、別途の場において、今後、技術的な事項も含めて検討されることとなる。</p>

平成 16 年度第 1 回 環境保全・創造検討委員会における指摘事項とその対応について

議事・指摘事項	対応等
<p>「マングローブ林」 マングローブ林と干潟 ,アダンと砂浜などコンポーネントが生態系の機能の基になっていることを考慮し ,配置計画を進めること .(古川委員)</p>	<p>マングローブ林については ,人工島全体の雨水や各施設からの中水等の活用により ,淡水のマングローブ林創出を考えていたが ,人工島における詳細な土地利用が未確定であるため ,雨水・中水の確保が断定できないこと ,また ,マングローブ林の陸地化に対する維持管理が煩雑となること ,等を考慮するとともに ,別途進められている「比屋根湿地・泡瀬地区海岸整備専門部会」における検討が進捗した後 ,その結果を受けて ,導入の可能性等について検討することとし ,現段階においては ,アダンの茂み等を拡大することにより ,原風景が再現されるような海浜断面(資料-3 , -24 参照)とした .</p>
<p>「身障者対応」 水上バイクのみならず ,ダイビングやシーカヤックも検討し身障者にも対応可能なビーチとすること .(赤嶺委員)</p>	<p>多くのマリンスポーツを ,身障者の方にも活動してもらえるよう ,今回資料の動線計画において提案している .</p>
<p>「需要予測」 今回の算定法を別のビーチであてはめてみること .(仲座委員)</p>	<p>他のビーチにおける利用者数や条件を情報収集し ,比較を行うが ,最新の利用者数のデータを採用するため次回専門部会にて提示する .</p>
<p>「駐車場」 駐車場規模は ,ピーク時の 30%が確保されているのみであるが ,路上駐車等其他への悪影響が懸念されることから ,ビーチの内陸部に確保すべき(仲座委員)</p>	<p>人工海浜内のイベント広場や展望広場等を ,ピーク時には臨時駐車場として使用することを ,陸域利用の基本的考え方とし ,陸域利用計画にて検討する .</p>